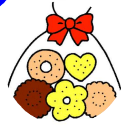


らじみサラダボール子育て情報



「道徳と規範」
令和4年6月22日号
板橋富士見幼稚園



褒め方叱り方

幼児期の育児については、誰もが悩み苦労されるものです。特に初めて授かった我が子へは、特別な思いがあります。毎日のはじめての出来事ばかりで、寝顔をのぞき込み息づかいを聞きながら、これで大丈夫かしらと悩むものです。つい1年半前ほどの出来事で、今思うと「たいしたことではなかった」と心配したことを笑うほど余裕があるかもしれません。さて、今日は2歳からの育児についてお話ししましょう。

2歳になると、反発したり言うことをきかなくなったりと、そのたびに悩まされます。甘やかしたらわがままになるのではと心配されたことはないですか。取り越し苦労は、またやってきます。この時期からは、自我が芽生え、自分のしたことを押し通そうとする新たなステップに入っていく、手がかかるようになります。下手に褒めるとすぐに見抜かれてしまいます。叱った時などは、その叱り方をすぐに見抜かれ、賢くすり抜けられてしまうこともあります。

では、どのような褒め方と叱り方をすれば良いのでしょうか。書店で褒め方上手や、叱り方上手などの本をめくられた事はありませんか。実際には、褒め方とか叱り方などという「法則」のようなものではありません。そのときの状況や子どもによっても、対応が異なるからです。

親の心に思った褒め方と叱り方が一番正しいのです。どの親御さんも、時には褒めすぎと叱りすぎがあります。でも皆さん、いきすぎた時は不思議と寝顔を見ながらそっと「ごめんね」と、そして褒めすぎた時には、「図に載せすぎたかしら」と自己反省してくれているのです。



【写真：杏の収穫祭…園庭で採れた杏を
美味しいジャムにしてみんなで味わいます】

この舵取りが、よい子を育てるのです。いい塩梅に、子育てを楽しむことが大切ですね。ただ過度に偏ったり、この間褒めてくれたことが今回は叱られたということがあると、子どもは矛盾を感じ、どちらが本当なのかが分からなくなってしまいます。褒められたことや叱られたことで、良いこと・悪いこととしての記憶され、道徳性となって育っていきます。一貫して、正しい事と正しくないことをしっかり伝えるようにしましょう。